

多摩市の生涯学習を考えるワークショップ 結果報告書

■実施概要

日時：令和元年 11 月 17 日（日）14：00～17：00

場所：消費生活センター講座室

参加者：多摩市民 13 名

■実施の流れ

玉川大学学術研究所高等教育開発センター教授の笹井宏益先生からのごあいさつの後、事務局より多摩市の生涯学習について概要説明をいたしました。

そして、参加者 13 名が世代別（若者世代 20 代・30 代、壮年世代 40 代・50 代、高齢世代 60 代・70 代）の 3 つのグループに分かれ、グループごとに市の生活課題と、それらに対して生涯学習を通じてどのように解決できるかのアイデアを話し合っていました。

■終了後アンケートでいただいたご意見

《第 4 次多摩市生涯学習推進計画に対して期待することや、市の生涯学習施策に対するご意見》

- ・多摩市が豊かになる生涯学習のあり方が計画に示していただけるといいなと思いました
- ・私たちの住む多摩市の未来像、素敵な計画だと思います。ぜひ多くの方々の目に触れるよう期待しています
- ・計画について知りませんでした、ぜひ広報活動がんばってください
- ・意見や提案に関しての実行を期待しております
- ・生涯学習の理念を総合計画に取りこむのはとても難しそうですが、市民の活動しやすいものになれば良いと思います
- ・生涯学習には、人間にとってその人生に貴重な価値を持つと思っています。特に多摩市はそれを市民参加のかたちで勧めている点を特に評価しています
- ・学校と地域の学びの場を入れてください
- ・学びについて、学校も考え、地域も考え、学びあっていけたらと思います
- ・今生きている“喜び”を感じながら、未来に夢や目標があり、向かっていけるエネルギーが続くように支えて欲しい
- ・クリアで分かりやすい情報発信に努めていただければ幸いです

■主な意見

【若者世代】20代・30代

カテゴリー	課題	解決策
生涯学習のイメージがわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・単語としては有名だが、具体的なイメージがわからない ・「生涯学習」という言葉の認識、周知 ・市として生涯学習の定義や事例を発信する必要？（何が生涯学習かというモデルが分からない） ・生涯学習について認知のない市民の方への情報発信方法（SNS？広報？HP?） ・生涯学習のメリットは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットがわかりやすい（情報発信） ・気軽さ ・（ライフプランと）リンクする形でイメージできると興味がわくかも ・学び×〇〇 →学び×人との出会い ・生涯学習のモデルや具体的な事例をまとめたものをつくり、より“生涯学習”に具体性を
生涯学習への関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方一人ひとりの能力をどう発揮していくか？（どうすれば市民の方がもっている能力を活かせるか） ・障がいのある人がどのように生涯学習に関われるか？（遠方の施設に行くのは難しい） ・仕事、育児、子育てをしている中での生涯学習への関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを定めた発信方法 ・ダイレクトにアプローチすると一定数興味をわく人はいるかも ・イメージを理解するには見るのが一番 ・若い人も教える側に回る ・地域とつながると逃げられない ・多摩市でしかできないこと ・自分が住んでいるところとして多摩市を捉える →市民（住民）と触れ合うこと→地域性 →（関わる人の）成長に触れる→継続性 ・生涯学習を提供してくれる人への表彰
資源（ヒト・モノ・カネ）	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の老朽化 ・公共施設と生涯学習の結びつけ（どんな施設にすれば生涯学習が促進されるか） ・限られた人材、予算などの資源の活用方法 ・資源（ヒト・モノ・カネ）が減少していく中で、市を豊かにするには？ ・財政的に厳しいところがあるので、お金のかかることはできなそう ・市民活動、生涯学習の場を提供する担い手の技能継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の施設やもっている資源を最大限に活用できるように働きかける
民間との協力	<ul style="list-style-type: none"> ・民間、NPO、大学などの担い手と市がどのように連携していくか ・ベネッセ東京支社があるので、協力関係ができるのでは？ ・有名大学が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業側としてのメリット、提示を ・影響のある主体（有名人、企業）の発信力を活用した生涯学習の促進
市の特徴・魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・20代前後の世代はあまり地域にいない ・多摩市に住みたいと思う魅力を知らない ・市内の小さなお店を知らない ・個人店は少なそう ・若い世代は市、まち、行政に興味がないそう ・働いている世代は休日は多摩市にあまりいなそう ・ニュータウン特有の地域活動の難しさ ・市として高齢化率が高いためニーズは多そう 	<ul style="list-style-type: none"> ・知恵を出すしかない ・個人店を増やす ・増やす仕組みづくり ・20代に魅力があるようにする

【壮年世代】40代・50代

カテゴリー	課題	解決策
広報活動・情報発信強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動の強化 ・ 市の情報発信がうまくいかない ・ 情報不足（興味がないことも含む） 	<p>【(世代のニーズ等に合わせた) 情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット活用 ・ SNS 活用 ・ 市のホームページの充実 ・ メール配信 ・ 高齢者が集まる場の活用（例えば千歳屋）※千歳屋は高齢者が多く集まるスーパーで、年金受給日には大勢集まるとのこと
市の目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標の策定 (KPI) ・ 目標の明確化 (策定)、数値で ・ 市のアイデンティティの明確化 	<p>【つつみかくさず報告する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (指標や数値目標も恐らくあると思うので) → 広報活動で伝える ・ 達成できたことだけでなく、達成できていないこともレポートする
コミュニケーションのための環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事以外で人と知り合える場所 ・ 人と人とのコミュニケーション不足 ・ 市民間の交流の場の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットを使用した e-ラーニング ・ 他人を批判、評価をしない場
時間・場所・費用の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事により時間がとれない ・ 勉強する時間がない ・ 学習するのに費用がかかる ・ 学習する場所が不便 (駅前) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学、中学校の活用
周囲の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習することに関して周囲の理解が不足している 	
本人の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習についての意識が低いのでは ・ 退職後の生活不安 	<p>【多くの市民が参加し、興味を引き込める生涯学習】</p> <p>【教師⇄生徒の関係ではなくなる】</p> <p>学ぶ立場と教える立場（両方を経験）、両者の垣根がなくなる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人に教える（伝える）ことで自尊心がうまれる ・ 教えられリスト（市民人材バンクのような）と、（教えてほしい）知りたいことリストの作成、両者のマッチング ・ 自己理解（自身の強み、能力の明確化） ・ 今までの経験を生かせる場（学び「直し」という表現は引っかかる、今までに培ったものがある） ・ 外国人にも「教え手」になってもらう ・ 障がい者も参加できる学び（教え手としても） ・ 具体的に、パラスポーツの体験・講習、交流機会 <p>【市民の能力活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が講師を担う ・ (ボランティアではなく…プロとしてだから、) 金銭をもらう、という仕組みも視野に) ・ 学生、現役、リタイア組…

カテゴリー	課題	解決策
コンテンツの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・必要とする講座がない ・世代に関係なく興味を共有できるテーマづくり 	<p>【多くの市民が参加し、興味を引き込める生涯学習】</p> <p>【楽習】 = 【コンテンツの多様化】 (学校のような、「学ぶ」「教えられる」というネガティブな楽しくないイメージの「学習」ではなく、「楽習」) (以下、必ずしも生涯学習の範疇にないものもあり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私学との提携 ・東京オリンピックの活用 ・ロードレース好きのメッカにする ・イベントの企画開催 ・スポーツイベント（オリンピック） ・課題のPR ・企業との協働 ・多摩市ゆるキャラグランプリ ・市の活性化案大賞 ・世界の食を学校給食に→「食から入る学び」の楽しさ ・食、文化、言語→在住外国人も「教え手」として
市の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・「多摩といえば〇〇〇〇」というものをつくる（ピューロランド以外） ・企業誘致 ・高齢化 ・若い方々にとって魅力ある街？ ・小、中学生教育支援 ・スポーツイベントへの参加 ・駅前更新（特に氷山） ・商店街がさびれている ・団地再生、空き家の問題 	
都市整備・街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化 ・インフラの老朽化の更新 ・公園の整備維持 ・緑の多い街、経費がかさむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車専用レーン ・ボランティア活動
グローバル化に対応できる街	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との交流 ・外国人の受け入れ体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・AFS（異文化交流の団体）との連携 ・外国人の参画→教え手としても教えられ手としても

【高齢世代】60代・70代

カテゴリー	課題	解決策
学校・地域学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域で学ぶ場を ・学校と地域の連携も、学ぶことを通して ・学校とか地域になかなか関わりがもてない ・SDGs は多摩市の学校も取りくんでいるので地域の人も共に学ぶ ・個人的には学習でステップアップしていけるが、周囲とのつながりでは難しい ・不登校、ひきこもり問題も地域で学びたい ・学童クラブも児童館も地域で学ぶ場に、対話的な ・多摩 NT と既存地域が分断している？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援には高齢者の力活用 ・地域で学校で教育についての学習会、講演会と対話の会はできないだろうか ・高齢者も活躍できるという意識革新 ・SDGs の授業なども地域の人も参加はできるだろうか ・学校、共働き、片親、進学に伴い、意識改革、両者に良い ・児童館、学童クラブや発達障がい放課後教室はあるが、みんなが集える場も
コミュニケーション (多世代)	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の家族、ジジ、ババ、子ども、孫の関係 ・人と人とのコミュニケーション不足、「個人」にこもりがち ・つながり合う仕組みが多様であるべき ・核家族の近居（多摩に限らない） 	
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会のせちがらさからか、勤労世帯や子どもが地域と関わりをもったり、学ぶ機会が少ない ・さまざまな催しに参加すると、いろいろなことに関係がもてる、そのきっかけがあれば良い ・共働き世帯の地域への参加方法の工夫 ・例えばサークル活動を継続できる方法があれば良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の空いているスペース（家の地下とか）を活用できたら良い ・コレクティブハウスを増やす施策、できないかなあ～ ・民間の施設でもヒト×コト×モノが交流する場を半公共の場とする ・半官半民の場が作れないか、立派でなくて良い ・地域の廃校などを市民に任せる ・空き家の活用
場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの場所、オープンスペース、誰でも何時でもくつろげる場、地域 ・公的な場は制約多く入りにくい、行きたい時に行けない ・音楽に関われる場 ・家庭内の小さな問題から市全体に関わるような広範囲の話ができる場 ・目的などの堅苦しきのない、何でも話せる場 ・出会いの場（沢山のの方々とお話することで学ぶ） ・子ども、障がい者、健常者…と区切りをしない、目的は同じ、共有する場を！ ・体力づくりが楽しく行える場 ・知識、情報交換をしながら学べる場 ・気軽に使えて楽しい場がほしい ・子どもたちも含め主体的に学ぶ場を ・相談できる場（気楽に学び楽しめる場） ・そこに行けば何か「魅力」がある経験をしてもらう場 ・自分の技術や知識が生かせる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りなどの行事も学びの場である ・現状を知っている人が情報を流す、回覧板（×）、広報（×）でなく、「口」で！ ・きっかけとしてペット繋がりも大事 ・市民の意識づくり→自分達の街づくり ・できるだけ沢山の発信の場をつくる工夫 ・気楽に誰でも立ち寄れる場を増やす工夫 ・大きな規模の施設でなく、空き家などを再生使用し、集まりやすい場づくり ・誰でも意見箱のようなものを各地域に置く ・もっと多くの人が参加、立ち寄れるコミュニティセンターにする工夫 ・地域の学校との繋がりをもてるよう、誰でも参加できる「学ぶ」（ワーク）の場 ・生涯学習支援バンクはグッド・アイデア、これをもっと具体的に積極的に展開しては

カテゴリー	課題	解決策
方法・場づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在活動している団体を繋げていける力量のコーディネーター養成 ・ コーディネーター、現状を課題解決に導くまでの人、組織→育てる ・ 既存団体へのヒアリング→コミュニケーション、団体運営のノウハウを探る ・ 空き家の活用
行政支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会性と公共性を帯びる活動に近づくようアドバイスなど必要かも ・ 社会性と公共性を帯びた活動のサポートをしっかりとってほしい（予算面で） ・ 行政の縦割り（多摩市に限らない） 	
未活動の人へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学び」への気づき→きっかけをサポートしてほしい ・ すでに活動している人たち、他団体のこと、よく知らない！！ ・ 個人的に動きたい、地域のために、共にやりたい…という人々とのコーディネート ・ 参加していない人（多いね！）へのアプローチ（80, 50） ・ 生涯学習の捉え方がまちまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性の意識改革 ・ 組織出身者は地域の人への意識革新が肝要
協働のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働のまちづくりがまだまだ、経済に限らず ・ 公的機関はあくまでも主体にならないように！市民のバックアップと補助支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的視点からの共生のまちづくりを
共通		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい事を考える前に基本を見直す